

● 2016年（平成28年）10～12月

1 社会・治安情勢

(1) シリア国境における事案

(ア) シリア国境での自爆テロ発生

10月16日、B e r mにあるルクバン難民キャンプで、シリア反政府勢力が占有する前哨ポストに対する自爆テロがあり、3名が死亡、20名が負傷した。(10月17日付ヨルダン・タイムズ紙)。

(イ) シリア側からの砲弾の着弾

11月2日、シリア側から発射されたと思われる砲弾が、イルビド県ラムサ市の民家に着弾した。警察当局によれば被害者はいない由。(11月2日付ガド紙)

(2) マアーン県のF a i s a l空軍基地での死亡事案

11月4日午前、マアーン県のF a i s a l空軍基地に入ろうとした米軍事顧問の車両がヨルダン側兵士と銃撃戦になり、米軍事顧問3名が死亡、ヨルダン人下士官1名が負傷した。(10月4～6日付ペトラ通信他当地各紙及びロイター通信)

(3) ヨルダン大学構内での乱闘事案

11月24日、国立ヨルダン大学構内で、2つの学生グループの間で口論を発端とする乱闘が発生し、目撃情報によれば外部から学生以外の者も参加していた他、発砲音も聞こえたという情報もあった。治安当局によれば、14名の学生が逮捕されるとともに大学周辺には再燃防止のための警備を強化している。

(11月24日付、インターネット情報他)

(4) オンラインメッセージ拡散に対する注意喚起

11月21日、公安当局の対サイバー犯罪ユニットによれば、多くのメッセージが公安当局名を騙って流されているが、真に必要なものは公的チャンネルで発表されるものが正しいものであると注意喚起している。(11月22日付ヨルダン・タイムズ紙)

(5) G4S警備会社への抗議行動

当地における「ボイコット、投資反対、制裁 (B o y c o t t , D i v e s t m e n t a n d S a n c t i o n s (BDS))」キャンペーンは、W F Pヨルダン事務所が、イスラエルによる組織的な人権侵害に加担しているG4S社との警備契約を解除したことを歓迎する旨発表した。

BDSキャンペーン関係者によれば、ヨルダンに事務所を置く6つの国連機関のうち、今回のWFPも加えた4機関 (U N H C R、U N I C E F、U N O P S、W F P) がG4Sとの契約を解除している由。また、同関係者によれ

ば、未だG4Sと契約しているヨルダンに事務所を持つ2つの国際機関（UN Women及びUNDP）に対しては、更に解除に向けて働きかけるとしている。また、UNICEFレバノン事務所はG4Sとの契約を解除したとの由。（12月7日付、インターネットサイト情報）

（6）警察官襲撃事件

12月14日、アンマン南部でパトロール中の警察車両が、銃を持った4名に襲撃された。銃撃戦の末犯人側2名が負傷、1名が死亡、残る1名も逮捕された。（12月9～15日付ヨルダン・タイムズ紙）

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）アンマン東部における銃撃事件

10月18日、アンマンから東に12kmのRusaiifaで、口論の結果25歳の男性が足を銃撃される事件が発生し、容疑者は逃走中であると警察が発表した。（10月18～20日付ヨルダン・タイムズ紙）

（2）違法薬物密輸摘発事案（全てヨルダン・タイムズ紙）

（ア）10月4日、治安当局は、ヨルダンとサウジとの国境であるAl Mudawaraにおいて、20万錠以上の違法薬物を第三国に密輸しようとしたヨルダン人2名を逮捕した。また、逮捕された時に容疑者が乗っていた車から自動小銃及び実弾多数が押収された

（イ）10月24日、麻薬取締局は、9日間にわたり計47箇所で一斉捜査を行った結果、麻薬売人90名を逮捕したほか、マリファナ、違法薬物カプセル、合成麻薬を押収したことを発表した。なお、逮捕者の中には銃器を所持している者がいたと報告されている。

（ウ）11月6日、麻薬取締当局は、アカバ港から50万錠もの違法覚醒剤を密輸しようとしたアラブ系外国人を逮捕したことを発表した。これは、アカバ港に入港したトラックの積み荷として密輸した後、第3国に向けて送り出すものと見られている。

（エ）11月19日、アズラック県において18キロの麻薬及び1万5千JDの自動小銃が税関当局に押収された。

（オ）11月20日、麻薬取締局が、アンマン近郊で138万錠の違法薬物を押収し、また南アンマンで7kgのヘロインを押収した。

（カ）11月27日、アカバ港で400万錠の違法薬物（カプタゴン）が押収された。

（キ）11月30日、シリア国境近くのラムサで、洞窟の中に隠されていた違法薬物（カプタゴン）20万錠が押収された。

（ク）12月4日、憲兵隊及び麻薬取締局は、ヨルダン北中部Ruseifa

市（アンマンから車で北東方向30分）で、違法薬物所持の容疑で武装した危険な人物を逮捕したと発表した。

（ケ）12月4日、憲兵隊及び麻薬取締局は、（場所不明の）不審な家屋を捜査し、容疑者7名を逮捕して、大麻1kg、違法薬物1,000錠、相当量のJokerと呼ばれる合成麻薬、小銃2丁を押収した。

（コ）12月5日、麻薬取締局は、4件の麻薬密輸を摘発したと発表した。

（a）50万錠もの違法薬物を車内内部に秘密裏に隠して密輸を試みたとして、複数名の容疑者を逮捕。

（b）複数の車両を使用し7万6千錠もの違法薬物を国外へ密輸しようとしたとして、容疑者2名を逮捕。

（c）アンマン国際空港において、11万錠もの違法薬物を贈呈品の中に隠し密輸しようとしたとして、3名のアラブ人を逮捕。

（d）シリアとの国境の町イルビト市において、合成麻薬（Joker）の密造所を捜査。銃撃戦の末に容疑者を逮捕し、3kgの合成麻薬の他、銃器、化学薬品、プリンター、ラップトップPC、製造道具、偽札を押収した。

（サ）12月8日、イルビド警察は、合成麻薬（Joker）3kgを、横転した車両から発見した。

（シ）12月12日及び13日、警察は2件の違法薬物取締捜査により14名を逮捕した。1件目は9名を逮捕し、26万5千錠のカプタゴンを押収した。2件目は、アンマン市内の路上で9kgのジョーカーを押収した。

（ス）12月25日以降の違法薬物一斉取締により、アンマン東部で0.5kgのコカイン及び2枚の大麻シートの押収、ザルカ（アンマンの北東約25km）で合成麻薬228個の押収、マダバ（アンマンから南に約30km）では400錠の違法薬物を押収した。

（3）女性のハンドバックを狙った強奪事件

11月28日、警察当局は、アンマン及びザルカで発生した女性のハンドバックを狙った13件の事件の容疑者数名を逮捕した。（11月29日付ヨルダン・タイムズ紙）

3 テロ・爆弾事件発生状況

（1）カラク城周辺他における銃撃戦事案

（ア）12月18日、カラクのカトラナーナ地区を巡回中の警察関係者が1軒の家屋における火災を発見し現場に急行した際、発砲されたことを発端として、別の地区でも複数の不審者から警察官が発砲を受け、警察官2名が負傷し、不審者らは車両にて逃走した。

その直後、カラクの別の地域を巡回していた警察関係者に対して不審者が銃撃し、負傷者が発生した。

続いて、カラク城で銃撃事案が発生し、警察関係者及び歩行者が負傷した。警察当局は同襲撃に対してカラク城を包囲したところ犯人が籠城し、その後5時間にわたるオペレーションの結果、人質全員は解放された。

警察は、テロリスト4名を殺害し、ヨルダン人警察官4名、憲兵隊3名、ヨルダン国民2名、カナダ国籍の女性観光客1名の計10名の死亡を確認した。また警察官11名、憲兵隊4名、ヨルダン国民17名、欧米系外国人2名の計34名の負傷者が病院に収容された。

また警察は、テロリストの潜伏場所から、爆発物、爆弾ベルト、その他の武器を押収した。(12月18日～19日付、ペトラ国営通信インターネット版他)

(イ) 12月20日、カラクのクレイフェルラ地区のテロ分子の潜伏先で、警察・治安当局とテロ分子との間で銃撃戦となり、警察官4名が死亡する事案が発生した。(12月21日付、ヨルダン・タイムズ紙他)

(ウ) 12月23日、カラク事件を非難し、治安機関との連帯を示す約1,000人のデモがアンマン市のダウンタウンで実施された。また、ヨルダン各地でも同様の抗議活動や座り込みが実施された。(12月23日～25日付、ヨルダン・タイムズ紙)

(エ) 12月28日、マアーン県ショーバグ(ペトラ遺跡から北東に約40km)で、警察当局他がテロ捜査を実施したところ、アラブ人容疑者の居住場所で銃撃戦となり、この結果、容疑者1名が死亡、1名が逮捕された。(12月29日付、ヨルダン・タイムズ紙)

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。

(了)